

# 備前焼 今年も復興支援

東日本震災からまもなく3年になるのを前に、備前焼の作家有志が8日に岡山市北区のJR岡山駅地下改札口前の岡山一番街コンコース広場で復興支援の備前焼販売会を開く。「被災地へ少しでもできることを」と震災直後から毎年続ける販売会。今年も60人の作家が約500点の作品を寄せる。経費を除いた売り上げをすべて被災地支援などに役立てる。

## 作家有志 8日岡山駅前で販売会

東日本大震災  
3年

備前市穂浪の備前焼作家藤原和さん(55)は、震災から4日後、オートバイで宮城県南三陸町に駆けつけた。何かできることはないか、と思ったからだ。行ってみると町がなくなっていた。

「あの光景を見て打ちのめされた。これは地元に戻って息の長い支援ができる体制を作らなければだめだと考えた」

藤原さんが主宰する勉強会のメンバーで、同市伊部の作家原田良二さん(36)も震災のニュースを見て、何かしなくてはという思いにとらわれていた。2人は販売会を開こうと決意し、主体になる「東日本復興支援チャ

## 「必要な限り続けていく」

リテイー from bizen」というグループを立ち上げ、賛同する仲間を募った。森敏彰さん(31)、竹内千恵さん(37)もすぐに加わり、支援の輪を広げる活動に取り組んだ。

その年の4月4日、JR岡山駅前でチャリテイー販売会を開いた。約80人の作家が507点の作品を寄せた。作品は完売。売り上げの約141万円は日本赤十字社に寄付した。

翌年は作家55人の作品527点を売り、約106万円を日赤経由で被災地へ。去年は作家59人の460点を売って、約67万円を国際医療NGO「AMDA(アマダ)」（本部・岡山市）経由で被災地に贈り、残り約22万円を子どもの自立支援に当たるNPO法人「子どもシェルターモモ」（岡山市）に寄付した。

8日の販売会は午前10時〜午後5時（作品がなくなり次第終了）。価格帯は500円から3万円、代金は会場の募金箱に入れる。売り上げは今回も、袋代や運搬費などの経費約3万円を除いて、AMDAと子どもシェルターモモに寄付する。

「復興支援チャリテイー」の代表を務める原田さんは「今年も60人の作家が参加してくれてうれしい。支援が必要な限り、続けていきたい」と話している。



販売会の準備をする備前焼作家のメンバー。右から竹内千恵さん、藤原和さん、原田良二さん、森敏彰さん＝備前市穂浪